

災害の記憶を伝える

阪神・淡路大震災と 地域の復興

23年目の神戸と、 地域・コミュニティの課題

2018

1.11 Th. ▶ **2.1** Th.

展示内容

- 1：阪神・淡路大震災を見つめる—大木本美通氏追悼
- 2：災害と復興、23年—阪神・淡路大震災と震災文庫
- 3：地域の復興とコミュニティ

会場 神戸大学附属図書館（社会科学系図書館）

開館日時 月～金8:45-21:30、土・日10:00-19:00 ※ただし大学入試センター試験のため、1月12日(金)は17時閉館、13日(土)～14日(日)は休館
展示解説 1月12日(金)9:30、15日(月)11:00、22日(月)12:30、24日(水)9:30、30日(火)12:30、2月1日(木)12:30 いずれも約30分間
主催 平成29年度震災復興支援・災害科学研究推進活動「災害資料の保存・活用の実践的研究：阪神・淡路大震災の知見を基礎として」、
神戸大学附属図書館、神戸大学人文学研究科地理学教室
協力 科学研究費補助金基盤研究S「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立：東日本大震災を踏まえて」（研究代表者・奥村弘）研究グループ
協賛 神戸大学海事博物館、神戸大学附属図書館大学文書史料室、山口誓子記念館、誓子・波津女俳句俳諧文庫
問合せ先 神戸大学人文学研究科（担当）菊地 真 mkikuchi@lit.kobe-u.ac.jp 吉川 圭太 yoshik@port.kobe-u.ac.jp
〒657-8501兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1 Tel：078-803-5523または5535

開催にあたって

「阪神・淡路大震災と地域の復興—23年目の神戸と、地域・コミュニティの課題—」を開催いたします。

2018年、1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）から23年目をむかえます。被災した阪神・淡路の一带は復旧や再開発が進み、神戸の町は地震があったとは思えないくらいです。

一方、日本列島において自然災害が止むことはなく、近年も東日本大震災や熊本地震、九州北部豪雨などによる被害が発生しています。戦後最大級の都市型災害とも呼ばれた阪神・淡路大震災での経験や、そこから得た知識を、私たちはどれだけ活かしているのでしょうか。

神戸では時間の経過とともに、震災の風化も言われています。しかし東日本の貞観津波や、安政・昭和の南海地震などが示しているように、過去の歴史地震や災害が、私たちに教えてくれることは少なくありません。いまだからこそ、災害の記憶を伝える努力が必要ではないでしょうか。

また被災から復興したとされる神戸でも、地域を細やかに見ると、現在なお解決されないことや、あらたな問題も浮かび上がっています。改めて、震災23年目となる神戸から、自然災害に人間社会がどう向き合っていくかを考える機会にしたいと考えております。

展示概要

第1部 阪神・淡路大震災を見つめる一大木本美通氏追悼



2017年7月に亡くなられた大木本美通さんは、阪神・淡路大震災直後から“記憶を記録に”との思いで神戸の被災地を丹念に歩き、人や街の姿をカメラにおさめ続けました。放送カメラマンだった大木本さんが仕事のかたわら個人的に撮影した2万点を越える記録写真は、神戸大学附属図書館震災文庫の貴重なコレクションとして公開されています。

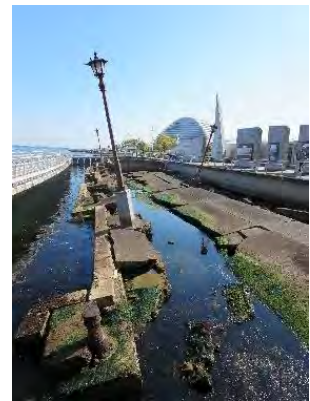
このたび、大木本さんのご逝去を偲ぶとともに、大木本さんがファインダーを通して見つめた被災地の移り変わりを、震災20年目に撮られた写真も交えながら展示します。

第2部 災害と復興、23年—阪神・淡路大震災と震災文庫

神戸大学附属図書館には、阪神・淡路大震災をきっかけにできた専門図書館、“震災文庫”があります。阪神・淡路大震災に関わる図書や記録など、さまざまな資料を収集・保管し、利用者に提供してきました。

震災20年目となった2015年には、「つたえる・つながる—阪神・淡路大震災20年—」展を開催し、阪神・淡路大震災の当時を振り返り、その後の復旧・復興の歩みを振りかえりました。以来、毎年1月に、リバイバル展として資料の展示を続けています。

23年目となる本年も、1995年当時の貴重な記録を展示いたします。震災体験を引き継ぎ、災害の記憶を伝える震災文庫の役割などをご紹介します。



第3部 地域の復興とコミュニティ

毎年のように日本列島各地で、自然災害が発生します。避難から生活再建、復興へと進む過程で、ことに阪神・淡路大震災以降、地域におけるコミュニティの維持や活性化が、課題とされるようになってきました。

地域に暮らす私たちの、隣近所や友人・知人といった周囲とのつながり。阪神・淡路大震災や東日本大震災では、そのような地域と人びとの結びつきが、災害後の住まい・暮らしをめぐる問題により、大きく揺らいできました。コミュニティという視点から、災害・復興と地域のあり方を考えます。



【写真裏：新長田一番街の被災状況（1995年3月、大木本美通氏撮影）。被災時のまま保存されたメリケン波止場。表：神戸港震災メモリアルパーク、地震で損傷した煉瓦敷】

【交通アクセス：神戸大学附属図書館（社会科学系図書館）JR六甲道駅、阪急六甲駅から市バス36系統「神戸大学正門前」下車キャンパス内を北へ徒歩約5分】